

第70回国民体育大会開催基本構想

はじめに 開催基本構想の策定にあたって

和歌山県では、平成27（2015）年に第70回国民体育大会が昭和46（1971）年の黒潮国体から44年ぶりに開催されます。

先の黒潮国体では、「明るく・豊かに・たくましく」をスローガンに、県民総力の結集により、和歌山県のスポーツ水準を飛躍的に向上させ、初の男女総合優勝（天皇杯）をもたらすとともに、女子総合（皇后杯）でも第2位の成績を収めました。

また、県内各地で繰り広げられた心を込めた民泊や花いっぱい運動、さらにはブラジル日系選手の特別参加など、創意・工夫を凝らした取組は、多くの大会参加者から好評を博し、今も県民の心の財産となっています。

国民体育大会（国体）は、半世紀に一度のビッグ・スポーツイベントであり、開催を起爆剤として、和歌山県のスポーツの振興・活性化を図り、「元気な和歌山」を実現するには、県民の英知とエネルギーを結集した取組が不可欠です。

この開催基本構想は、第70回国民体育大会開催基本方針（平成19年9月5日第70回国民体育大会和歌山県準備委員会第1回総会決定）に基づき、大会の開催及び開催準備の指針となる基本目標と、その実現に向けた取組の方向性や考え方を明らかにするものです。

第1章 国民体育大会（国体）とは

1 国体の目的・性格

国体は、広く国民の間にスポーツを普及し、スポーツ精神を高揚して国民の健康増進と体力の向上を図り、併せて地方スポーツの振興と地方文化の発展に寄与するとともに、国民生活を明るく豊かにしようとするものであり、国民の各層を対象とするスポーツの祭典です。（国民体育大会開催基準要項）

2 国体のあゆみ

国体は、戦後の混乱の中、スポーツを通じて国民に夢や希望を与える国民的行事として、昭和21（1946）年に京阪神地区で第1回大会が開催されました。

以来、都道府県の持ち回り開催となり、昭和63（1988）年の第43回京都大会から二巡目に入った国体は、開催準備や大会運営に創意・工夫を凝らす中で、県民の連帯感や自信を深めるとともに、郷土の魅力を全国に発信するなど、地域の活性化を図る多彩なスポーツイベントとして開催されています。

3 国体改革

（1）国体をめぐる課題

現在、極めて厳しい財政状況の中、開催地都道府県・市町村に求められる施設整備や大会運営に関わる多大な人的・財政的負担が課題となっています。

また、スポーツレベルの向上と国際化の進展にともない、国内外で各種の競技大会が数多く開催されるようになり、トップアスリートにとって国体への参加が必ずしも最優先となっていないとの指摘もあります。

(2) 国体改革の流れ

こうした中、平成15年3月、財団法人日本体育協会において「新しい国民体育大会を求めて～国体改革2003～」が策定され、「大会の充実・活性化」と「大会運営の簡素・効率化」を改革の2本柱として、夏季・秋季大会開催の一本化（平成18年兵庫県国体から導入済）や、参加総数の15%削減（平成20年大分県国体から導入済）など、具体的な国体改革が順次進められているところです。

第2章 県民の暮らしとスポーツ

1 スポーツの潮流

少子高齢化やグローバル化などによりライフスタイルの多様化が進む現代社会において、スポーツは競技者を中心とした限られた人々のためだけのものではなく、全ての人々にとって、体力向上や健康増進、さらには生きがいや楽しみといった精神的な充足感をもたらすものとして、私たちの豊かな暮らしに欠かすことができない世界共通のすばらしい文化の一つであるといえます。

2 スポーツの社会的役割

スポーツは、実際に「する」だけではなく、スポーツを「みる」ことや、運営スタッフや指導者としてスポーツを「支える（育てる）」ことにより、人々との交流・連帯感などを育みます。

だれもが、それぞれの体力や年齢、目的、興味、技術に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる環境の整備と、「する・みる・支える（育てる）」という多様なスポーツへの関わりを通じて、地域への誇りや郷土愛が醸成され、活気に満ちたひとつづくりや地域づくりに繋がることが期待されています。

3 国体開催の意義

国体開催の意義は、開催地におけるスポーツの競技力向上と普及を図るとともに、県民一人ひとりが生涯にわたりスポーツを通じた生活の質的向上を実現できる環境を整備・充実させることにより、単なる一過性のイベントに終わらない持続可能なスポーツの振興・活性化を図ることです。

国体開催を契機とした、スポーツ競技力の向上と普及、地域スポーツの環境を整備・充実するには、ヒューマンウェア（人づくり・組織づくり）、ハードウェア（施設・用具の整備）、ソフトウェア（各種プログラムの展開）という3つの視点から国体準備をとらえることが必要です。

また、これらの取組を通じ、“ひとつづくり”や“まちづくり”など地方文化の振興も併せて実現されなければなりません。

4 二巡目和歌山国体と県民意識

国体は、国内最大のかつ最高の国民スポーツの祭典であり、県民の連帯意識や郷土意識の醸成など、地域の活性化に大きな役割を果たしてきました。

二巡目和歌山国体の開催を契機として、県民のスポーツに対する関心や意欲を高めることはもちろんのこと、全国から集まる競技者や観客を行き届いた「おもてなし」で迎え、他の地域の人々との交流を通して、「ふるさと和歌山」への理解と愛着を深めるとともに、他地域の文化や人情に対する理解を深め、より広い視野をもって郷土や日本をとらえ、積極的に社会の形成に参画する意欲を高めるなど、県民性の形成に寄与できるものと期待されます。

参考：「第70回国民体育大会（和歌山国体：仮称）開催に関するアンケート調査」（※1）より抜粋

(問2)	44年ぶりとなる和歌山県での国体開催について	
	「早く開催して欲しかった」	32.7%
	「開催して欲しくなかった」	4.3%
	「特にない・わからない」	63.0%
(問3)	国体開催への期待（複数回答）	
	「スポーツへの興味・関心が高まる」	48.4%
	「県内のスポーツの競技力が向上する」	42.9%
	「地域が活性化する」	36.2%
	「競技施設が充実する」	33.9%
	「トップアスリートが見られる」	22.9%

(※1)

＜調査機関＞和歌山県教育委員会

＜調査区域＞和歌山県全域

＜調査対象＞和歌山県に居住する満15歳以上の男女

＜調査方法＞郵送による配布・回収

＜調査期間＞平成19年11月22日～12月14日

＜抽出方法＞市町村単位での無作為抽出。県内30市町村の人口規模により標本数を比例配分。

配布数 : 2,000人

回収数 : 1,108人

回収率 : 55.4%

第3章 基本目標（和歌山がめざす国体）

スポーツの潮流や社会的役割、国体開催の意義を踏まえ、平成27（2015）年の和歌山国体が、全国に和歌山県の魅力を強くアピールするとともに、県民一人ひとりが、スポーツを「する」「みる」「支える（育てる）」機会を享受し、その価値、楽しさ、感動の共有をもたらす大会となるよう、以下4つの基本目標を設定します。

基本目標 1：和歌山を元気にする国体

- 男女総合優勝（天皇杯）獲得を目標に掲げ、スポーツを通じて県民が夢と感動を共有し、交流の輪を広げるとともに、生きがいのある社会の形成に繋げるなど、和歌山県にふさわしい国体を開催します。
- 慣例にとらわれず、様々な視点から創意工夫を凝らすことにより、簡素・効率化を図りながらも新しい時代に適応した質の高い大会運営に取り組みます。

基本目標 2：国体を契機としたスポーツの振興

- 県内スポーツ水準の向上を図るとともに、国体を一過性のイベントとしてではなく、開催後も継続したスポーツ振興が図れるよう工夫し、県民のだれもが、いつでも、どこでも、いつまでも、スポーツに親しむことができる環境整備に取り組み、「スポーツ王国・和歌山」を復活させます。

基本目標 3：活力に満ちたふるさとづくりに寄与する国体

- 国体の開催を契機に、スポーツに対する県民の認識や意欲を更に高揚させるとともに、活力に満ちたふるさとづくりや心豊かでたくましい人づくりなどの地域おこしを推進します。

基本目標 4：和歌山の魅力を全国に発信する国体

- 和歌山県の魅力を最大限に活かすとともに、「おもてなし」の向上に努め、いつまでも心に残るまごころのこもった大会を目指します。
- 心温かさや奉仕・慈善などの市民性を重視する県民気質を存分に発揮し、訪れる人々に癒しと感動を提供することにより、全国に和歌山ファンを生み出します。

第4章 基本目標の実現に向けて

1 「和歌山を元気にする国体」の実現

(1) 県民総参加

① 県民エネルギーの結集

- 県・市町村、競技団体、企業、学校、NPOなど多様な主体との連携による開催準備、大会運営を行います。
- 全県民の総力をあげて郷土を代表する競技者を応援するとともに、全国から集まる競技者や観客をまごころを込めて温かく迎えられよう、幅広い県民からの協力を得て、スポーツボランティア、競技会係員などの大会運営スタッフを計画的に養成し、国体後の活動も視野に入れた組織づくりを行います。
- より多くの県民の自主的な参加が得られるよう、県民一人一役の仕組みを企画・推進します。

② 県民の理解・支持を得るためのプロモーション

- 「テーマ（愛称）」「スローガン（標語）」の公募や「マスコット」の決定、親子で参加できるスポーツイベントの開催など様々な機会を通じ、国体の目的・意義を伝える場を創出します。
- 社会貢献や市民活動への関心が高い県民の知恵とエネルギーを活かしたアイデアを広く求め、国体開催に備え、県民が主体的に企画・実践する様々な県民運動を支援するなど、県民の視点に立って国体づくりを進めます。
- マスコミに対し積極的な国体報道への理解と協力を求めるとともに、国体情報誌やインターネットなど多様なメディアを活用し、分かりやすい県民参加情報の提供に努めます。

③ 民間活力とのパートナーシップ

- オフィシャルスポンサー企業や協賛企業による支援体制の構築や、県内企業の優れたものづくり技術を活用した国体グッズの製作など、民間活力との連携確保に努めます。

(2) 簡素・効率化と創意工夫

① 簡素・効率化の促進

- 国体と全国障害者スポーツ大会の準備推進体制を一本化し、両大会の連携を図り、効率的な施設整備や大会運営を行います。
- 競技施設は、県と会場地市町村との役割分担を明確にし、原則として県の施設は県が、市町村の施設は会場地市町村がその整備を行うこととします。
また、可能な限り既存施設の有効活用を図るとともに、県内に国体施設基準を満たす施設がない場合は、近隣府県の高機能な施設の活用を図るほか、先催県や後催県と競技用具の共同購入を行うなど経費の削減に努めます。

② 多様な視点での創意工夫

- 簡素な中にも創意工夫を凝らし、総合開閉会式は、競技者、観客、出演者が一体となった記憶に残る演出を行うとともに、各地域で開催される競技会は、本県の代表選手はもとより、全国のトップアスリートが存分に実力を発

揮し、競技者・観客がともに感動を共有できる環境整備に努めます。

- 競技会場として施設を新たに整備する場合は、環境への負荷や財政負担の軽減を図りながらも、国体終了後におけるスポーツ振興の拠点として、地域住民の幅広い活用促進を視野に入れた整備を行います。

③ “低炭素国体” への取組

- 競技会場のユニバーサルデザイン化を促進するとともに、リサイクル資材や環境にやさしい製品の利用を推奨し、ゴミの減量化・分別化を徹底するなど、人と地球にやさしい大会運営に努めます。
- 競技会運営への太陽光発電などの自然エネルギー導入などを検討するとともに、公共交通機関を利用したパークアンドライドによる観戦、紀州材を使った施設整備など、「低炭素社会」の構築に合致した大会運営に取り組みます。

2 「国体を契機としたスポーツの振興」の実現

(1) 総合的な競技力向上対策の実施（競技水準の向上）

- 優れた素質を有する子どもたちを発掘し、一貫した指導体制に基づく育成・強化プログラム（※2）を実施することにより、手づくりのトップアスリートを継続して育成します。
- 優秀な指導者の養成・確保により、トップレベルを目指す競技者に、高度で専門的な指導を組織的・継続的に実施できる体制を整えます。
- 県内民間企業などの協力のもと、企業内クラブチームの設立を促進するなど、トップレベル競技者の確保・強化を図ります。

（※2）

※ ゴールデンキッズ発掘プロジェクト

県内の小学校3年生等を対象に、体力・運動能力が特に優れた子どもたちを発掘・選考し、選考された子どもたちを「ゴールデンキッズ」として認定し、将来オリンピックをはじめとする国際舞台や国体で活躍できる競技者として育成する事業。平成19年度から第1期生（小学校4年）が育成プログラムを開始。

※ きのくにジュニアトレーニングセンター事業

小・中学生を中心とした県内のトップジュニアを拠点施設に集め、中学校・高等学校等での強化へと繋がる一貫指導体制を確立し、将来は世界で活躍する未来のトップアスリートを育成。

※ ジュニアハイスクール指定事業、ハイスクール強化校指定事業

県中学校・高等学校体育連盟と連携し、強化運動部等を指定し、全国強豪校等への遠征・強化合宿を実施する経費の一部を補助。

(2) 県民スポーツの振興と環境整備

① スポーツ活動への参加促進

- 会場地市町村へのスポーツ指導者の派遣や会場地市町村出身の競技者の育成・強化、スポーツ教室の開催など、開催競技を会場地市町村に普及するための取組を推進します。
- 実施競技は、できるだけ全県内に分散して行うよう配慮するとともに、県内各地で県民のだれもが参加できる「デモンストレーションスポーツ（ゲートボールや綱引など）」を開催するなど、多くの県民がスポーツに親しむ機会をつくります。
- 国際競技大会、全国大会等のスポーツイベントの誘致に努め、トップアス

リートのひたむきな姿を県民が身近に目にする機会を充実させるとともに、郷土の競技者の活躍を積極的に広報・情報発信し、スポーツに対する県民の興味、関心を高めます。

② スポーツに親しめる環境づくり

- 国体開催を契機に、地域におけるスポーツの拠点として、子どもからお年寄りまで、初心者からトップアスリートまで、だれもが、それぞれの興味、関心、技術・技能レベルなどに応じてスポーツに親しむことができる「総合型地域スポーツクラブ」の設立をより一層促進し、県民が、生涯にわたり豊かなスポーツライフを享受できる環境を整えます。
- 障害のある方が気軽にスポーツ指導を受けることができるよう、障害者スポーツ指導員養成講習会の実施や障害者スポーツボランティアの計画的な養成・組織化を進め、障害者スポーツに対する県民の理解を促し、その普及・発展を図ります。
また、競技者や競技団体による地域でのボランティア活動を促進し、スポーツを通じた社会貢献活動の気運を高めます。
- 国体の開催により培われたノウハウや人材、整備・改修された施設などの財産を活かし、国体終了後もスポーツを核としたコミュニティ活動が自発的に行われる仕組みづくりに努めます。

3 「活力に満ちたふるさとづくりに寄与する国体」の実現

(1) 心豊かでたくましい人づくり（国体を契機とした人間力の向上）

- 学校での教育活動全体を通じ、国体の目的・意義や障害者スポーツについての理解や関心を高める機会の充実を図ります。
- 次代を担う子どもたちが、スポーツの楽しさを実感し、体力づくりに取り組む機会となるよう、親子・家族での参加など異なる世代が交流できる各種スポーツ関連イベントを展開します。
- 学校体育施設を競技会場や練習会場として利用することを契機に、学校、地域社会、競技団体との連携・協力関係を構築し、体育授業の充実や運動部活動の活性化を通じて子どもたちの体力の向上を図ります。
- 青少年や子どもたちがボランティアや大会運営スタッフとして競技団体や地域住民と交流する機会を創出し、市民性を高め、地域への誇りと郷土愛を育みます。

(2) 活力に満ちたふるさとづくり

① 地域力の向上

- 国体準備を契機とした地域住民の体力の向上と持続可能な社会の実現に向けた特徴的な取組として、地域ぐるみで学校やスポーツ公園などの屋外運動場の芝生化を推進します。
- 競技者が試合に専念できる環境づくりに配慮しつつ、会場地市町村の伝統芸能や特産品の紹介など、地域資源を活かした歓迎運動を展開し、地域住民が、国体を契機として郷土の魅力を再発見し、国体後も自ら主体的にコミュニティ活動に取り組む気運を高めます。

② スポーツを通じたまちおこし

- 本県の温暖な気候を活かし、県内外の競技者やチームのスポーツ合宿（スポーツキャンプ）を誘致するなど、スポーツの里づくりとして“わがまちスポーツ”による地域おこしを県内各地で推進します。

4 「和歌山の魅力を全国に発信する国体」の実現

(1) 人情あふれる心のこもった大会（癒しと感動の提供）

- 県内各地の温泉、新鮮な魚介類や野菜、多種多様な果実などの地域資源を積極的に活用し、全国から訪れる競技者や観客の記憶に残る癒しと感動を提供します。
- 県民や来県者が国体競技を楽しく観戦できるよう、競技結果速報や観光・イベント情報の発信、ユニバーサルデザインに配慮したガイド表示の工夫など、的確で分かりやすい情報提供に努めます。
- 国体を機に和歌山を訪れた人々を温かく迎え、快適な時間を過ごしてもらえるよう、県民全体のホスピタリティ向上に努め、リピーターの確保・増大に繋がります。

(2) 「紀の国わかやま」の魅力発信

① 多彩なPR活動の展開

- 新聞、テレビ、ラジオ、インターネットなどの各種メディアを通じて、早期に広報活動を展開し、県内外に和歌山国体の開催を浸透させます。
- 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」をはじめ、和歌山県が誇る優れた歴史・文化資産や豊かな自然環境を最大限に活用し、観光資源と国体をセットにした観光ルートの設定や観光キャンペーンの推進など、「紀の国わかやま」の魅力を全国に発信します。

② ビジネスチャンスの開拓

- 県内外から参加者が集う国体をマーケティングの視点でとらえ、来県者の動線に対応した売り込み戦略による県産品の消費拡大・ブランド化の推進や、スポーツ合宿を切り口としたプロモーションの展開による誘客の増進など、大会を通じて様々な場面で、新たなビジネスチャンスを開拓します。

おわりに 「未来に羽ばたく愛着ある郷土 元気な和歌山」 の実現に向けて

平成27（2015）年の和歌山国体は、2016年の第31回オリンピック競技大会のプレ開催や、第70回という節目の大会であることから、県内外からも大きな注目を浴びる大会となります。

これらの強みを十分に発揮し、県民一丸となって4つの基本目標の実現にまい進し、和歌山国体を成功させることにより、本県のスポーツ実施人口の拡大と競技力の向上、地域のスポーツ環境の整備・充実を実現します。

また、地方文化の振興など県勢発展に大きな遺産（レガシー）を残せるよう、さらに、県民全体がスポーツを通じて感動と達成感を実感し、郷土への愛着を深め、自信と誇りに満ちた「元気な和歌山」の実現に繋がるよう、総力をあげて取り組みます。